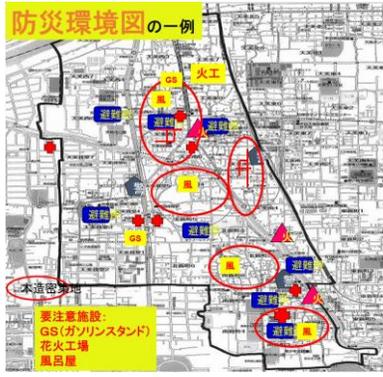


# 【災害図上訓練(DIG)を通して防災意識を高めよう】



想定される被害を記入



防災情報を閲覧

## 活用場面

### 一斉学習

教師による教材の提示

### 個別学習

個に応じた学習

思考を深める学習

表現・制作

### 協働学習

発表や話し合い

協働での意見整理

協働制作

## 活用した機器等

Chromebook  
プロジェクター

## 活用したアプリ等

Google Maps  
Google スライド  
FigJam  
YouTube

## 学習のねらい

災害図上訓練DIG (Disaster:災害, Imagination:想像力, Game:ゲーム)を通して、南海トラフ地震に備え、生活圏内で予想される様々な災害をグループごとに想定し、防災の視点からの地震が起きた際の行動力や判断力を身に付ける。

## 学習の流れ

**導入** YouTubeなどで過去に起こった災害の映像等を確認したうえで、災害図上訓練(DIG)の進め方を確認する。



**展開** インターネット検索を活用して防災情報等を閲覧し、南海トラフ地震が起きた際の被害想定を、学校周辺の地図(紙媒体の白地図)へグループごとに書き込んでいく。書き込んだ地図(白地図)を参考に、想定される被害について、FigJamでグループ討議を行い対応策を考える。



**まとめ** 各グループごとに、書き込んだ地図を用いて、南海トラフ地震が起きた際の被害想定と対応策を、発表用スライドを用いて発表する。



## ここでICTを活用!

- 1) インターネットなどで過去に起こった災害の被害状況を確認した。
- 2) インターネット検索を活用して市町村が提供している防災情報をもとに、スーパーマーケットの場所、避難所、AED設置場所などを確認した。
- 3) 被害想定について考察し、付箋アプリ FigJamで意見交換・共有した。
- 4) グループ討議で考察したことを発表するために、Googleスライドを活用した。また、いつでも振り返りを行うことができるように、ドライブ上で共有した。

## 活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

実際の災害を想定し、自分の生活圏内でもある学校周辺に潜む災害の危険性を「見える化」するために、災害図上訓練(DIG)を活用した。活動前にYouTubeで映像等を見せることで、南海トラフ地震が起きた際の被害を想定しやすくなり、自分ごととして考えられるように工夫した。紙媒体の地図と合わせて、インターネット検索を活用することで、市町村が提供している防災情報を得やすくなり、より多くの情報を得たうえで考えることができた。災害図上訓練(DIG)を通して防災意識を高め、自分の命はもちろん、周りの人々の命を守りながら、集団の中で貢献できるような力を身に付けられたと考えた。自分の生活圏内ということもあり、生徒それぞれが自分ごととして、主体的に取り組むことができていた。